

1 学校教育目標 「温かい心 強いからだ すぐれた知恵」

2 重点取組事項

- ・一人一人の児童の能力・特性に応じた学習活動を工夫し、基礎・基本の定着を図る。
- ・アクティブラーニング・ICT活用・学力向上等に関する効果的で多面的な指導法について研究を深める。
- ・子どもたちの安全確保のため、教職員の危機管理意識と危機管理能力の向上を図る。

3 学校教育に関する重点取組

【自己評価】

(基準 4 : 十分達成できた 3 : 達成できた 2 : 取り組んでいるが、成果は出ていない 1 : 取組が不十分である)

1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる		評価
(1) 授業改善の取組を促進するとともに家庭との連携により、学力向上を推進する (2) 特別支援教育の取組を充実させ、自立や社会参加に向けた主体性を育成する		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究テーマに沿った全体研究授業をそれぞれの学団から計4回実施する。学団で指導案を検討し、授業後には全員で活発な研究協議を行うことで、教師の授業力向上と授業改善を図る。また全員が最低1回ずつ授業を公開し、各自の授業改善に努める。 ・全国学力・学習状況調査の結果から、家庭学習が不十分であることが明らかになったため、学校だより等で保護者の協力を仰ぐ。 ・特別支援教育コーディネーターを中心に、全教職員が要支援児童についての情報を共有する。また、特別支援教育の研修を行い、児童理解についての知識と技術を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新学習システム、アクティブラーニング推進事業、児童支援加配等を駆使し、よりきめの細かい個に応じた指導を行う。学級の様子、児童の様子に柔軟に対応し、常に最も効果的な体制に更新していく。 ・家庭学習ノートは、学年進行を考慮しながら、全学年の取組にしていく。 ・要支援児童について、「個別の指導計画」だけでなく、「個別の教育支援計画」を作成する。保護者の理解と協力を得ることが不可欠であるため、作成に至った経緯や合理的配慮について全教職員で共通理解する。 	

2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る		評価
(1) 道徳性育成の取組を促進し、思いやりに満ちた人間関係及び社会とのかかわりづくりに努める (2) 基本的な生活習慣確立の取組を促進し、心身共に健全な育成を図る (3) キャリア教育の取組を促進し、社会的自立に必要な能力を育成する		3.0
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の時間だけでなく、全教職員が教育活動全体で、道徳性の育成に努める。自尊感情と自己有用感を高めること、他者への思いやりの心を育むことを意識しながら、諸活動を行う。 ・道徳や特活の時間を中心に、学校のきまりや社会のマナー・ルールについての指導を行い、規範意識の向上に努める。基本的な生活習慣については日常的に指導する。 ・5・6年生対象に、園田公民館の学社連携事業のひとつ、「社会教育地域力創生事業・生き方探究キャリア教育」を実施する。子どもたちが興味のある職種の方々をお招きし、話を聞いたり質問したりすることで、将来の夢や進路について、ある程度具体性をもって考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体計画に基づき、学年毎に道徳の時間及び各教科での年間指導計画を作成し、道徳指導を全教科の要とする。オープンスクールでは、道徳の授業参観や人権講演会を実施し、保護者への啓発にも努める。 ・生活指導、問題行動の指導について、家庭と連絡を密にとり、協力しながら行っている。遅刻の多い児童や不登校傾向の児童には、児童支援教員が迅速に対応し、状況の悪化を未然に防いでいる。 ・教科や行事の中で、将来の夢を考えたり、いろいろな職業について関心を持つような時間を設定し、キャリア教育の推進を図る。 	

3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む		評価
(1) 食育を通して生活改善の取組を促進し、望ましい生活習慣を育成する (2) 体育・スポーツ活動の取組を促進し、体力・運動能力の向上を図る		3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・担任と栄養教諭が、学年の発達段階に応じた食育の授業を行う。また、「給食だより」で、給食食材に関心をもたせたり、望ましい生活習慣について啓発したりする。 ・週1回の朝会体育を行い、年間を通して運動に親しませる。また、持久走大会、大縄大会などの行事を取り入れ、体力増進への意欲づけをする。今年も「あまっ子ジャンプチャレンジランキング」に取り組み、意欲的な体力向上につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食週間の行事の充実を図り、食への関心を高める。また、栄養教諭による食教育の他、家庭科の食分野指導でも、担任と栄養教諭とのTTを推進し、食品に関する知識や食生活のレベル向上を図る。 ・朝会体育では、「園北体操」や「園北ボール体操」、縄跳び、ドッジボール等を実施し、児童の発達や興味関心に対応した体づくりを継続的に行う。また、冬季には、朝、グラウンドを走り、持久力をつける。 	

4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る		評価
(1) 安全教育の取組を促進し、登下校及び校内の安全確保を図る (2) 防災教育の取組を促進し、危機管理能力の向上を図る		3.1
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・毎月の安全点検を確実にを行い、危険箇所をいち早く発見し、事故を未然に防ぐ。登下校の指導に関しては、各学級や地区別集会で徹底し、さらにPTAや安全ボランティア、地域の企業等の協力も得て交通安全に努める。 ・阪神大震災、東日本大震災等から得られた教訓を生かす防災教育を推進する。 ・防災訓練は火災、地震を想定して行い、年に1回は消防署の協力を得て消火訓練や高所からの避難訓練を行う。年に1度、引き渡し訓練を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全点検の際は、全職員が危機意識をもって細かいところも見逃さないようにする。 ・不審者情報や災害警報が出た場合は、保護者にメールで配信すると同時に、職員の巡回等を行う。 ・危機対応マニュアルを毎年見直し、職員への徹底を図る。 ・避難所としての学校対応マニュアルについて、職員で研修する。 ・将来、どこにいても、どんな災害に遭遇しても、自分の命を守る行動がとれるよう訓練の内容を検討する。 	

5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む		評価
(1) 教職員の資質向上の取組を促進し、学校の組織力及び教育水準の向上を図る (2) 地域の教育力を活用した取組を促進し、開かれた学校園づくりを図る		3.3
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の研究テーマの下に全教職員が同じ目標をもって協働することにより、一人一人の資質向上と児童にとって分かりやすい授業を実現する。 ・「園北まつり」に地域の団体に出店してもらったり、グラウンドゴルフ、囲碁ボール等のスポーツをいっしょにしたりして、楽しく交流を図る。 ・年2回学校公開を実施する。授業だけでなく、お話し会や持久走大会、人権講演会などの行事を組み入れ、保護者や地域の方に参観してもらおう。 ・毎月の学校だよりや学年だよりだけでなく、行事や出来事等をホームページで公開し、広く情報を提供している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手教員が増え、数少ないミドルリーダーの役割が過重になっている。ベテラン、中堅、若手の人数バランスは決してよくはないが、全体として手薄な部分がないよう、全教職員で協力する。また、若手教員にも主要ポストを与え、責任と自覚をもたせることで、組織力向上を図る。 ・園北ふれあいまつりでの交流や朝のあいさつ運動、下校時の見守り活動、図書ボランティアの活動、ユイ教室の児童支援活動等、地域人材の活用をさらに進める。 ・保護者アンケートや学校評価の結果を受け、課題となる事柄に関してはスピード感をもって改善していく。 	

教育目標		評価
(1) 教育目標の達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 教育目標の具現化と指導の充実		3.1
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・全ての教育活動は、教育目標「温かい心・強いからだ・すぐれた知恵」の達成に向けてなされるという大前提を、全職員で共通理解する。 ・教育目標を児童に分かりやすい言葉で伝える。 ・教育目標をもとに、各学年の目標を設定する。 ・各学年、各分掌が目標具現化のための具体的な方策を策定し、教育活動の一貫性を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校目標を学年目標やクラス目標とともに教室に掲示し、常に意識させる。また、全校朝会や集会活動、学年集会等で教育目標や学年目標を意識させるような機会を増やす。 ・各教師が教育目標の旗印の下、その達成に向けてそれぞれの持ち場で日々活動していると感じられることが、やりがいにつながり、充実した教育活動が実現できる。 	

研究テーマ		評価
(1) 研究テーマの達成に向けた充実した教育活動の展開 (2) 研究テーマの具現化と指導の充実		3.4
取組とその成果	課題と改善策	
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマ「自ら求め、はたらきかける子どもを育てる」を達成するため、学年毎に具体的な目標を設定し、授業研究に取り組んでいる。 ・「メディア・ICTを効果的に活用して思考力・表現力を育てる」をサブテーマに設定し、教材提示器や大型モニター、タブレット等を使い、授業形態の工夫に取り組んでいる。 ・各学年、各教科の単元の中で、メディア・ICTを活用し、児童が主体的に活動できる学習過程(アクティブラーニング)を工夫した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマに沿い、年4回の全体研究授業を行う。専門的知識のある外部講師を招き助言してもらうことにより、質の高い授業の実現を目指す。 ・研究主任が中心となり、研修会参加や先進校視察を行い、伝達講習で全教員が研修の成果を共有する。 ・ICT活用をさらに推進するため、機器の整備と拡充に努める。 	

【学校関係者評価】

基準 4：よく取り組んでおり、成果が大きい 3：熱心に取り組んでおり、今後の期待できる
 2：取り組んでいるが、成果が十分でない 1：取組が不十分である

学校関係者意見等		評価
1 教育・学習内容を充実させ、確かな学力を身につけさせる	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題がやや少ないように思う。高学年にはもう少し宿題を増やしてもらいたい。 ・算数で困ったとき、新学習の先生に教えてもらって助かっている。 ・尼崎は全国的に見て学力が低い。このようなレベルでは将来が不安。全国平均に近づいているからと喜んでいるのはどうかと思う。 ・問題をさせるばかりでなく、問題を作らせてみるのはどうか。本当に解っていないと出来ないのでは学力が身につくのでは。 	3
2 心の教育を充実させ、自己実現の意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちや大人に対しての言葉づかいが少し気になる。相手の気持ちを考えないで発言する子どもをよく見かける。難しいとは思いますが、学校で指導してもらいたい。 ・少人数の学校なので、みんながお互いをよく知り仲良くやっているのでよい。 ・高学年には移植医療から命を考える講演、低学年には友だち関係の大切さを確認する講演、というように、成長段階に応じた心の教育が実践できている。 	3
3 食育や体育を充実させ、健康な体づくりに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・ブラジル給食や尼崎給食など、たまに変化をつけながら、食について、あるいは食を通してその背景にあることについて考えさせるいい取組をしていると思う。 ・給食週間の色々な企画が楽しい。 ・朝会体育や園田北体操、園田北ボール体操など、特色ある取組がおもしろい。 ・学力だけでなく体力をつけることも大切なので、継続して行ってもらいたい。 	3
4 安全な教育環境を確保し、防災意識の高揚を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の照明が全体的に暗い。明るく楽しい雰囲気づくりをしてもらいたい。 ・毎月きちんと安全点検を行っており、不備があれば即座に修繕してくれている。 ・毎学期の避難訓練の内容がそれぞれ充実しており、震災の記憶を風化させない指導もよくされている。 ・限られた予算の中、安全優先で施設の補修をするのは仕方ないが、体育館のカーテンが何年経ってもボロボロのままなのは何とかしたほうがよい。 	3
5 家庭・地域・学校の連携を深め、信頼され、活力に満ちた学校園づくりに取り組む	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも細かく丁寧なお便りで、学校やクラスの様子がとてもよく伝わってくる。 ・目標に向かって努力すること、友だちと協力すること、難しいことに挑戦することなど、色々な経験をさせてもらった。トラブルにもすぐに丁寧に対応してくださり、安心して通わせることができた。 ・猪名寺の自治会は市内でも特に地域の活動が活発である。小学校の児童もたくさん参加してほしい。 ・児童の数が少ないので、登下校の見守り等で地域の人と児童が顔見知りになることができてよい。 	3
■教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・園田北小学校は一体感がある。校門を入ったよく目につくところに教育目標を刻んだ石碑があり、学校としての姿勢や思いが伝わってくる。 ・知育、徳育、体育をバランスよく育成することを謳っており、教育の目指すべき姿だと思う。日々の授業や行事でしっかりと体現してもらいたい。 	3
■研究テーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・昔の授業のように先生が教科書と黒板だけを使って教えるのではなく、タブレットや大型テレビ、書画カメラ等を使って分かりやすく授業をしている。今の子どもたちは恵まれている。 ・先生が一方向的にしゃべるのではなく、子どもたちが話し合ったり発表したりする場面が多くある。主体的に授業に参加する必然性があるので、内容が身に付きやすいと思う。 	3
評価項目 (A:優れている B:適切である C:おおむね適切である D:要改善)		評価
アンケート等、自己評価の根拠となる資料は適切か		B
自己評価の結果の内容は適切か		B
自己評価の結果を踏まえた今後の改善策は適切か		B